



バグダッドLO日々業務報告(3月24日1830)

| 区 分 | 内 容 |
|-----------|--|
| 1 警戒態勢等 | (1) サマワに直接影響を及ぼす脅威情報 (2) イラク全域に係る脅威レベル サマワ及びバスラは、バグダッド及びモスルは、ラマディは |
| 2 特記事項 | なし。 |
| 3 本日の業務 | 情報収集及び連絡調整 |
| 4 明日の予定 | (1) 情報収集及び連絡調整 (2) 在バグダッド日本大使館員交代に伴う無線傍受支援 |
| 5 その他(備考) | : 戦力回復(3/22~3/31) |

バグダッド日誌(3月24日)

○インターナショナル・ゾーン

昨日、我々が所在するキャンプ・ビクトリーの東約15kmに位置するインターナショナル・ゾーン(IZ)に、米中央軍高官受入れのための調整に行ってきた。

このインターナショナル・ゾーンは、チグリス川のほとりにあり東西約5km、南北約3kmの米軍が管轄する地域である。日本で言うところの霞ヶ関のようなところで、バグダッド市内のど真ん中にあり、

この地域には が主に所在しており、 に、ほとんどの がある。またイラク内務省やイラク国防相などイラクの行政組織、UNAMI等の国連施設等多数あり、多国籍軍の政治面を主に が担当し、キャンプ・ビクトリーは を担当しているといえる。

警備員は、 が大多数であり、大変親日である。 入り口も、この の警備員により警備されている。気軽に声をかけてくれるが、誤解を恐れず個人的な印象を述べさせてもらおうと、言葉は悪いが「血なまぐさい傭兵」と言う感じがする。キャンプ・ビクトリーの警備を 実施しているのとはかなり違った印象をうける。

調整が予想外に早く終了したため、インターナショナル・ゾーンにある無名戦士の碑や閲兵場等の名所を案内してもらった。大変規模が大きくイラクの本来持つ国力を見る思いであった。しかしながら、サダム・フセインが観閲したであろう閲兵場のスタンドは爆撃等の影響で傷みが激しく、また米軍によるものと思われる落書きがされており「強者どもが夢の跡」は無惨な状況であった。

インターナショナル・ゾーンからキャンプ・ヴィクトリーにもどるためのヘリが故障したため、ヘリ・パッドで約10時間待たされ帰営が午前1時となってしまう大変長い一日であった。しかしながらヘリから見たバグダッドの夜景は美しく、復興が着実な歩みを遂げていることを実感した。